

仙台大学通信教育指導室メールマガジン 第25号

通信教育指導室から、こんにちは。

前回紹介した「仏様の指」の逸話は、社会科授業名人の有田和正先生の心も深く捉えたようです。

「仏様の指」の逸話に触れながら、有田先生が説く「望ましい教師像」を二つ紹介しましょう。



有田和正先生

教え上手は「待つ」と「押す」をくり返す

人を育てる教え上手は、多く教えることよりも、少なくしか教えないことに知恵を絞るもの。なぜならそれが、教える相手をより深く考えることにみちびくきっかけになるから、ということをこれまで説明してきました。

それを端的にあらわすおもしろいたとえ話があります。

※略 有田先生は「仏様」を「お釈迦さま」と言いながら、『仏様の指』の逸話を紹介しています。



教え上手というのは多かれ少なかれ、この「お釈迦さまの指」を実践しているものだと思います。

●「お釈迦さまの指」を意識する

教わる側に「教わっている」という自覚を持たせないまま、自力で考えるように仕向け、「自分ひとりの力で学んだ、理解した、成長した」と思わせることです。

そのためには、少なくしか教えないことが大切になってきます。花も水をやりすぎでは根腐れしてしまいます。水は足りない

くらいのほうが花もよく育つのです。けれども、私たちはつい水をやりすぎてしまう。親切で熱心な人ほど、「なぜ、これがわからないんだ」とあれこれ口をはさみ、手を出し過剰な指導をしてしまう。自ら「はてな？」と疑問を抱き、好奇心を働かせるまえに、エサを口に運ぶように教えてしまう。

そして、その教えすぎが「また、先生が教えてくれるだろう」という頼る心を植えつけて、生徒の主体性を損ね、依存性を育ててしまうのです。

したがってお釈迦さまの指を実践するためには、答えをすぐには教えない忍耐力が必要になってきます。男が自力で荷車を引き出すまでお釈迦さまが待っていたように、相手が自ら考え出すまでがまんして待つ必要があるのです。

相手が考えはじめたら、しばらくだまって見守る。迷路に入ったり、堂々めぐりはじめたら、少しだけヒントを与えて指で押してやる。ふたたび考え出したら、またしばらく見守る。この「待つ」と「押す」のくり返しが教える技術の肝であり、本当に人を育てることになるのです。

教えていることが教わっている側にいか

にも見え見えなのは失格で、教える手、育てる指は相手に「見えない」のが理想です。答えを隠したり、答えまでを遠回りさせた

りしながら、大事なことほどすぐには教えない、最短距離では教えないことが肝要なのです。

『教え上手』有田和正著（サンマーク出版 2009）p.066 一部編集

手とり足とりの指導が、子どもにとってよい指導だろうか？

もう一つの「望ましい教師像」として、『学級づくりの教科書』という有田先生の著作から、小学3年生を清里合宿（3泊4日）に連れていったときのエピソードを紹介します。有田先生らしい一味ちがった「仏様の指」の在り方、教師像が浮かび上がってきます。

朝6時、私の部屋へ、
「先生、起きてください。
時間ですよ」
と、起こしにくる。



三日間とも、わたしは起こされた。
実は、「起こされたふり」をしたのである。ちゃんと目がさめているのに寝ているふりをしていたのである。

女の子なんか、「先生は、朝寝ぼうでしようがないんだから。起こしてあげなくちゃ」なんて話している声が聞こえていた。

わたしは、笑いをこらえて寝たふりをしていた。

こうすることで、「先生にたよっていはダメだ。自分たちでちゃんとやらなくちゃ」という気持ちを持たせるのである。

若い教師は、このようなわたしの態度をみて、「教育的良心が足りない」と言う。

子どものために尽くすことが大切で、子どもを起こし、そうじ・食事・入浴など、すべてリードしていくことが教師の役目であるという。

とにかく、子どもに尽くすことが「教育

的良心」であるという。

本当にそうであろうか。

手とり足とりの指導が、子どもにとってよいのであろうか。

わたしは、子どものために尽くすということは、手とり足とりの指導ではなく、ひと言少ないことや、一手少ない指導だと考えている。子ども一人ひとりを主体的に育てることが教育の目的なら、指導過剰はマイナス効果である。

一流の教師は、子どもが「自分一人の力で育ったのだ、成長したのだ」と思わせる教師である。

三流の教師は「教育的良心」とやらで、男に「オレが車を押してやったのだ。感謝しろ」と言う教師である。

「ひと言少ない指導」や「一手少ない指導」には、忍耐が必要である。

子どもが困っていると、すぐ手を出したくなる。そこをがまんすることが、本当に子どものためになるのである。

『学級づくりの教科書』有田和正著（さくら社 2011）p.152~p.155 一部編集

有田先生は「わざと『頼りない教師』を演じた」とおっしゃっています。真相はいかに？